目次

1 はじめに 2

2 最初の手順 4

2.1 概要 4

2.2 システム要件 6

2.3 最初の操作 8

3 機能 11

3.1 デスクトップ表示 11

3.2 システム情報 15

3.3 パフォーマンスグラフ 24

3.4 ドライブと USB デバイス 27

3.5 表示プロファイル 29

3.6 クリップボードとサポート 33

4 設定 36

4.1 通知領域のメニュー 36

4.2 構成ファイル 42

4.3 コマンドラインパラメーター 55

4.4 組織への展開 57

5 トラブルシューティング 62

6 よくある質問 66

7 サポートと O&O の関連製品 71

はじめに

O&O DeskInfo は、O&O Software GmbH が提供する無償の Windows 用システム情報表示ツールです。

O&O DeskInfo でできること

PC の主要な情報を**壁紙の手前、デスクトップアイコンの背後**に表示します。普段のデスクトップ操作を妨げずに確認できます。

Windows のバージョンとビルド、使用可能なメモリ、CPU／GPU の負荷、使用中のアダプターの IP アドレス、ドライブの使用率などが分かります。ヘルプデスクへの問い合わせには、まとめてクリップボードにコピーできます。

主な特長

- **主要な情報を一覧表示**：PC、ユーザー、OS、CPU、RAM、GPU、ハードウェア、システム状態、バッテリー、ネットワーク、ドライブ。
- **リアルタイム監視**：CPU、RAM、GPU、ネットワークの履歴グラフを表示します。通知領域のアイコンでも CPU 負荷を確認できます。
- **インストール不要**：ファイルを展開するだけで使えるポータブルアプリです。
- **標準ユーザーで利用可能**：通常の動作に管理者権限は不要です。
- **柔軟な設定**：日常の操作は通知領域のメニューから、詳細な指定は単一の XML 構成ファイルから行えます。
- **全機能が無料**：フリーウェアで、有償エディションや機能制限はありません。

無償ライセンス

個人・業務を問わず、台数の制限なく無償で使用でき、改変せずに配布できます。試用期限、ライセンスキー、有償の上位版はありません。

> **注記**
>
> インストールは不要で、他のソフトウェアを同梱していません。インストーラーや別のソフトウェアとまとめた配布物は利用条件に反するため、入手先をお知らせください。

本書の使い方

サイドバーで次の項目を選べます。

- **はじめに**：概要、システム要件、最初の操作で、製品の機能、必要な環境、起動手順を確認します。

- **機能**：デスクトップ表示、システム情報、パフォーマンスグラフ、ドライブと USB デバイス、表示プロファイル、クリップボードとサポートで各機能を説明します。
- **設定**：通知領域のメニュー、構成ファイル、コマンドラインパラメーター、組織への展開を参照できます。
- 表示が期待どおりでない場合はトラブルシューティングを参照してください。
- 一般的な疑問にはよくある質問でお答えします。
- サポートと O&O の関連製品に問い合わせ先と関連製品を掲載しています。

構成ファイルでのみ変更できる設定には 構成ファイル の印が付きます。

O&O の関連ツール

O&O DeskInfo は、ベルリンで開発される Windows 用 O&O 製品のひとつです。通知領域の製品案内から次の製品を確認できます。

- **O&O ShutUp10++**：Windows 10／11 のプライバシー設定を管理する無料ツール。
- **O&O AppBuster**：プリインストールされた Windows アプリなどを削除する無料のアプリ管理ツール。
- **O&O Syspectr**：PC とサーバーをクラウド経由で監視・管理するサービス。

全製品は O&O Software の製品ページをご覧ください。

概要

O&O DeskInfo は、Windows デスクトップにシステム情報を常時表示する小型のポータブルアプリです。画面の構成と使い方を紹介します。

画面を構成する 3 つの要素

メニューやツールバーを備えた従来型のウィンドウの代わりに、次の 3 つを使用します。

要素	用途
デスクトップ表示	デスクトップ上で情報を継続的に更新するパネル。
通知領域のアイコン	CPU 負荷をリアルタイムに表示するグラフ。設定の入口にもなります。
アイコンの右クリックメニュー	プロファイル、位置、モニター、外観、グラフ、更新速度などを変更します。通知領域のメニューを参照してください。

余白、任意の色、グラフ寸法、ヘルプデスクの案内文、管理対象 PC の制限は構成ファイルで指定できます。

2 つの表示モード

通知領域の表示設定で**デスクトップに統合して表示**を切り替えて、次のモードから選びます。

デスクトップ統合（既定）

パネルを**壁紙の手前、デスクトップアイコンの背後**に配置します。ウィンドウ、タスクバー、アイコンは手前に残り、クリックは背後のデスクトップに届くため通常どおり操作できます。

Windows の構成に応じ、次のいずれかが自動で選ばれます。

- **標準モード**：アイコンの背後に配置します。Windows 10 と多くの Windows 11 で使用します。
- **代替モード**：新しいデスクトップ描画方式（raised desktop）で標準モードが使えない Windows 11 では、ほかのすべてのウィンドウより背後、壁紙より手前のレイヤーに配置します。

エクスプローラーが異常終了や画面設定変更後に再起動しても、パネルは自動的に元の位置に戻ります。

スライドウィンドウ

統合をオフにすると、画面端の色付きのタブまたは通知領域のアイコンで開閉する小さなウィンドウになります。次の変更も可能です。

- **常に手前に表示** でほかのウィンドウより手前に固定。
- **背景不透明度** でパネルの背景を調整。

- **ボタンの色** で画面端のタブの色を選択。
- タブを非表示にして通知領域のアイコンだけで開閉。

利用例

ヘルプデスクと IT サポート。 利用者は PC 名、Windows ビルド、IP アドレス、シリアル番号を画面で読み取れます。**情報をクリップボードにコピーしてください** で一括して渡せるため、コマンドプロンプトや `msinfo32` 、複数の設定画面を案内する必要がありません。`InfoMessage` に窓口の連絡先を設定できます。

負荷の監視。 CPU、RAM、GPU、通信量の履歴から負荷の推移やボトルネックを調べ、さらに詳しく調べるときはアイコンのダブルクリックでタスク マネージャーを開けます。

機器の資産管理。 メーカー、型番、シリアル番号、マザーボード、BIOS と TPM のバージョン、セキュア ブート、ドメイン参加、Windows の認証状態などを確認・コピーできます。

キオスク、実習室、教室。 配布用構成で情報や位置を決め、利用者による変更を禁止できます。組織への展開を参照してください。

無償ライセンス

フリーウェアで、個人・業務とも台数制限なく使用でき、改変せず再配布できます。有償エディション、試用期間、キー、上位版専用機能はありません。

> **ヒント**
>
> 複数の PC の情報を集中管理するには、クラウド型の監視・管理サービス **O&O Syspectr** を利用できます。一定台数まで無料で利用できるプランもあります。

システム要件

O&O DeskInfo はインストール、データベース、常駐サービスを必要としません。

対応するシステム

項目	詳細
オペレーティングシステム	Windows 10／11、Windows Server 2016 以降。
アーキテクチャ	x86、x64、ARM。
フレームワーク	.NET 8 ランタイム。自己完結型には同梱され、ランタイム別配布型では未導入の場合に案内が表示されます。
インストール	不要。ポータブルアプリです。
権限	通常の操作には標準ユーザー権限で十分です。
インターネット接続	使用許諾契約の参照、オンラインヘルプ、任意の更新確認に必要です。

リソースの使用

負荷を抑えるため次の仕組みを利用します。

- **効率モード**は既定で有効です。Windows は優先度を下げ、対応機器では高効率コアを使います。通知領域の **効率モードの使用** で切り替えられます。
- **更新速度** は既定で 5 秒、高速では 1 秒、低速では 10 秒です。更新速度を参照してください。
- **スタンバイや休止状態**ではタイマーとカウンターを止め、復帰時に自動再開します。

データの保存先

内容	保存先
構成ファイル	`%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\OODeskInfo.cfg`
ログ（有効時のみ）	`%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log`
メモ帳への一時出力	`%Temp%\DeskInfo.txt` および `%Temp%\ProductKey.txt`

`OODeskInfo.cfg` が **`OODeskInfo.exe` と同じフォルダー**にあると、ユーザープロファイルよりそちらが優先されます。USB メモリで設定ごと持ち運べます。構成ファイルを参照してください。

複数モニター

DPI スケーリングの異なるモニターを組み合わせることもできます。表示方法は次のとおりです。

- 特定のモニターだけに表示する。
- **全モニター** に同時表示する。

起動中のモニター接続や切断を検出します。配置上の注意はデスクトップ表示を参照してください。

表示言語

英語、ドイツ語、フランス語のほか、対応版では日本語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語を選べます。既定は Windows の表示言語です。通知領域のメニュー、`/lang`、または `Language` で変更できます。

本書は日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語（ブラジル／ポルトガル）で利用できます。

最初の操作

初回の起動から、最初に設定しておきたい項目までを案内します。基本的な準備は約 1 分です。

1. ダウンロードして展開する

1. 製品ページから O&O DeskInfo をダウンロードします。
2. アーカイブを `C:\Tools\OODeskInfo` などの任意のフォルダーに展開します。持ち運ぶ場合は USB メモリに展開できます。
3. インストールは不要です。任意の自動起動設定を除き、Windows レジストリへの登録も行いません。

2. プログラムを起動する

`OODeskInfo.exe` を実行します。次の 2 か所に表示されます。

- **メインモニターの右上**に情報パネルが表示されます。
- Windows の通知領域に、CPU 負荷の推移を示すアイコンが表示されます。

> **ヒント**
>
> アイコンが見当たらない場合は、通知領域の矢印を開いてください。すべての設定の入口なので、よく使う場合はタスクバーの見える位置に移しておくと便利です。

3. 初期設定ウィザード

初回の起動時に次の 3 段階のウィザードが開きます。

1. **ようこそ**：製品の概要と、使用中の Windows でデスクトップ統合がどう動作するかを説明します。
2. **簡単なセットアップ**：主な設定をまとめて変更できます。
   - **アプリケーションの起動**：Windows サインイン時に自動起動するかを選びます。
   - **表示プロファイル**：標準、フル、最小などから表示する情報量を選びます。
   - **モニター選択**：表示先のモニターを選びます。
   - **ウィンドウの位置**：プレビューを見ながら画面の四隅から選びます。
   - **外観**：壁紙の上で読みやすい文字サイズと不透明度に調整します。
3. **O&O の関連製品**：ほかの Windows 用 O&O ツールの概要を確認できます。

ウィザードの自動表示は初回のみです。その後も、通知領域のメニューから初期設定や関連製品の案内を開けます。

4. 表示する情報を選ぶ

アイコンを右クリックし、**表示された情報** を開きます。次の 4 種類が用意されています。

プロファイル	内容
既定	ユーザー、PC、OS、CPU、RAM、GPU、ハードウェア、システム状態、バッテリー、ネットワーク（基本／詳細）、仮想マシン、各ドライブ、システムとネットワークの使用状況を表示する推奨構成。
フル	標準と同じカテゴリを表示し、固定列の指定を使わず自動配置します。
最低限	案内メッセージ、ユーザーとコンピューター、OS の基本情報。
ドライブ専用	ラベルのないコンパクトなドライブ表示。

目的に合わない場合は **カスタムプロファイルを編集...** で独自に作成できます。表示プロファイルを参照してください。

5. 位置と外観を設定する

通知領域のメニューで次を選びます。

- **位置**：画面の四隅のいずれか。
- **モニター**：特定の画面、またはすべての画面に同時表示。
- **テキストカラー**：自動（既定）では、明るい壁紙に黒、暗い壁紙に白を使用します。固定色も選べます。
- **フォントサイズ**：10、12、14 ポイントから選びます。
- **表示の不透明度**：100%、80%、40% から選びます。

各項目の詳細は通知領域のメニューを参照してください。

6. Windows と同時に起動する

Windows 起動時に実行 を有効にすると、サインインのたびに起動します。現在のユーザーの自動起動項目を 1 件登録するだけで、管理者権限は不要です。

無人展開では `SetAutoRun` を指定すれば、ユーザーに確認せず自動起動を設定できます。

7. クリップボードへのコピーを試す

アイコンを右クリックして **情報をクリップボードにコピーしてください** を選びます。表示中の情報をプレーンテキストでコピーし、必要ならメモ帳で開けます。同僚やヘルプデスクにシステム構成を伝えるときに使ってください。クリップボードとサポートを参照してください。

次に読む項目

- 位置やレイアウトについてはデスクトップ表示をご覧ください。
- 表示できる値の一覧はシステム情報をご覧ください。
- 詳細な調整方法は構成ファイルをご覧ください。
- 複数の PC への展開は組織への展開をご覧ください。

デスクトップ表示

情報パネルをどこに表示するか、画面にどう配置するか、外観をどう変更するかを説明します。

表示モード

デスクトップに統合する

既定ではパネルを**壁紙の手前、デスクトップアイコンの背後**に表示します。ウィンドウ、タスクバー、アイコンは手前に残り、クリックはパネルを通過して背後のデスクトップに届きます。

Windows のバージョンとデスクトップ構成に合わせて、次の方法を自動で選びます。

- **標準モード**：パネルをデスクトップアイコンのレイヤーの子ウィンドウにします。Windows 10 と多くの Windows 11 で使用します。
- **代替モード**：新しい描画方式（raised desktop）の Windows 11 では、壁紙より手前で、ほかのすべてのウィンドウより背後に置きます。

エクスプローラーが再起動しても、パネルは自動で元の位置に戻ります。

通知領域の表示設定で**デスクトップに統合して表示**を切り替えます。表示は再構築されますが、グラフの履歴は保持されます。

スライドウィンドウ

統合をオフにすると、画面端の色付きタブから引き出す小さなウィンドウに切り替わります。タブまたは通知領域のアイコンで開閉します。

このモードでは、次の 4 項目も設定できます。

項目	場所	説明
常に手前に表示	表示設定	ほかのすべてのウィンドウより手前に表示します。
デスクトップで表示ボタン	表示設定	タブを表示・非表示にします。非表示時は通知領域のアイコンで開閉します。
背景不透明度	表示設定	パネル背景の不透明度を 100%、80%、40% から選びます。
ボタンの色	表示設定	タブの色を青（既定）、白、黒、赤、緑、オレンジから選びます。

タブはマウスで上下にドラッグできます。垂直位置は `ButtonYPosition` に保存されます。

位置

通知領域の **位置** で画面の四隅から選びます。

- 左上
- 右上
- 左下
- 右下

スライドウィンドウは横に開くため、**左** または **右** から選びます。

既定は **右上** です。構成ファイルでは `PanelPosition` で指定します。

画面端からの余白

構成ファイル

デスクトップ統合モードでは、パネルの上下左右に余白を設定できます。タスクバー、ドック、壁紙の一部と重なる場合などに、次の 4 つの値をピクセル単位で指定します。

```
<Settings>
 <TopMargin>40</TopMargin>
 <RightMargin>24</RightMargin>
 <BottomMargin>0</BottomMargin>
 <LeftMargin>0</LeftMargin>
</Settings>
```

モニター選択

複数のモニターを接続すると **モニター** サブメニューが表示されます。

- **全モニター**：すべての画面に同じプロファイル、位置、外観で同時に表示します。
- **モニター 1**、**モニター 2** など：選んだ画面だけに表示します。番号は Windows のディスプレイ設定に対応し、メインモニターには「プライマリ」が付きます。

表示先を選び直すと、位置を合わせるためプログラムが再起動します。モニターの接続や切断は起動中に検出され、メニューが更新されます。

構成ファイルでは `Monitor` と `ShowOnAllMonitors` を使用します。

> **注記**
>
> デスクトップ統合では負の X 座標を含むモニター配置に制約があります。メインモニターの左に画面がある構成で正しく表示されない場合は、Windows のディスプレイ設定で画面を並べ替えるか、スライドウィンドウを使用してください。

文字の表示

テキストカラー

表示設定の**テキストカラー**で次のいずれかを選びます。

- **自動的に**（既定）：壁紙が明るければ黒、暗ければ白を使います。スライドショーなどで壁紙が変わっても文字色を調整します。
- 固定色は **白**（固定時の既定色）、**ライトグレー**、**グレー**、**ダークグレー**、**黒**、**赤**、**緑**、**青** から選べます。

固定色を選ぶと自動調整は無効になります。構成ファイルの `TextColor` にほかの色を指定すると、メニューには **カスタム** が表示されます。

フォントサイズ

表示設定の**フォントサイズ**から次の 3 種類を選べます。

項目	文字サイズ
小	10 ポイント
標準（既定）	12 ポイント
大	14 ポイント

`TextSize` で別の値を指定すると、メニューには **カスタム** が表示されます。

表示の不透明度

表示設定の**表示の不透明度**では、パネル全体を 100%、80%（既定）、40% から選びます。値を下げると壁紙が透けるため、模様の多い背景では文字を読みにくくなる場合があります。

背景不透明度 はスライドウィンドウの背景だけを変更する別の設定です。

列のレイアウト

情報を最大 4 列に配置し、縦に長くなりすぎるのを防ぎます。

自動で高さをそろえる

既定では、次の重みに従って列の高さをそろえます。

- ラベルの行と各ドライブはそれぞれ 1 単位です。
- グラフは高さに応じて数えます。通常はラベルの 3〜5 行分です。
- グループは分割せず、関連する情報をまとめます。

個別に位置を決めなくても各列が整います。この設定は `UseBalancedColumnDistribution` で切り替えられます。

すべての列を同じ高さにできない場合は、`BalancedColumnAlignment` で短くする列を決めます。

値	動作	向いている位置
`RightBound`（既定）	左端の列を短くします。	右上、右下
`LeftBound`	右端の列を短くします。	左上、左下

列を手動で割り当てる

プロファイルエディターや定義ファイルで、各カテゴリを決まった列に固定できます。表示プロファイルを参照してください。

アイコンとパネルの操作

デスクトップ統合モードのパネルはクリックを透過します。操作は通知領域のアイコンから行います。

操作	結果
アイコンを**左クリック**	スライドウィンドウを開閉します。統合モードでは何も起きません。
アイコンを**ダブルクリック**	タスク マネージャーを開きます。**ダブルクリックでタスクマネージャーを起動** で無効にできます。
アイコンを**右クリック**	通知領域のメニューを開きます。
アイコンに**ポインターを合わせる**	現在の CPU、RAM、ネットワークの値を表示します。

スライドウィンドウでは、グラフにポインターを合わせると現在・最小・最大・平均値が表示されます。

システム情報

表示できる情報はカテゴリに分類されています。表示プロファイルには、必要なカテゴリまたは個々の値を、表示したい順に記述します。

キー列は、表示プロファイルや構成ファイルで使用する名前です。大文字と小文字は区別しません。

> **ヒント**
>
> **表示された情報 → カスタムプロファイルを編集...** のプロファイルエディターでは、チェックボックスだけで項目を選べます。以下のキーを入力する必要があるのは、展開の準備などで構成ファイルを直接編集するときです。

カテゴリー一覧

カテゴリキー	プロファイルエディターでの名前	内容
`InfoMessage`	情報	ヘルプデスク連絡先などの任意のメッセージ。
`UserAndMachine`	ユーザーとマシン	ユーザー名、コンピューター名、ドメインへの参加状態。
`OS`	オペレーティング システム	エディション、バージョン、ビルド、コード名、インストール日、最新更新、再起動待ち、ライセンス認証。
`CPU`	CPUとRAM	プロセッサ、コア数、搭載メモリ、システムの種類。
`GPU`	グラフィックスカード	すべてのグラフィックスアダプターのメモリと現在の使用率。
`Hardware`	ハードウェア情報	メーカー、型番、シリアル番号、マザーボード、BIOS。
`SystemStatus`	システム現状	稼働時間、前回起動、セキュア ブート、TPM、ページファイル。
`Battery`	バッテリー情報	状態、充電率、残り時間、バッテリーの劣化状況。
`VirtualMachine`	仮想マシン情報	仮想環境かどうか、およびプラットフォームの詳細。
`NetworkBasic`	ネットワーク(基本)	アダプター、接続の種類、MAC、IPv4／IPv6 の各アドレス。
`NetworkAdvanced`	ネットワーク(上級)	サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP、DNS、WINS サーバー。
`Performance`	システムの利用	CPU、RAM、GPU の指標と履歴グラフ。
`NetworkTraffic`	ネットワーク利用	送受信レートと履歴グラフ。
`LocalDrives`	ローカル ドライブ	内蔵ドライブの容量と使用率。
`RemovableDrives`	着脱式ドライブ	USB メモリ、メモリカード、外付けドライブ。
`NetworkDrives`	ネットワークドライブ	割り当て済みネットワークドライブとその状態。
`DriveLED`	ドライブ専用	上記 3 種類のドライブをまとめて表示。

`-`（半角ハイフン 1 つ）は、2 つのグループの間に縦方向の間隔を入れる区切りです。

案内メッセージ

キー	表示名	説明
`InfoMessage`	情報	システム情報の上に表示する任意の 1 行。構成ファイルの `InfoMessage` で設定します。ヘルプデスクの連絡先や利用者向けの案内に使えます。

ユーザーとマシン

キー	表示名	説明
`UserName`	ユーザーネーム	現在 Windows にサインインしているユーザーの名前。
`MachineName`	機械名	コンピューター名。
`DomainMembership`	ドメイン / ワークグループ	Active Directory のドメイン名、Azure AD 参加またはハイブリッド参加の状態、あるいは所属ワークグループ。

オペレーティングシステム

キー	表示名	説明
`OSEdition`	オペレーティング システム	インストールされている Windows のエディション。例：Windows 11 Pro。
`OSVersion`	バージョン	Windows のバージョン。例：24H2。
`OSBuild`	ビルド	インストールされている Windows のビルド番号。
`OSCodename`	コードネーム	Windows リリースの内部コード名。
`OSInstallDate`	設置日	Windows をインストールした日付。
`OSLastUpdate`	最終更新	直近に適用した Windows 更新プログラムとインストール日。
`OSPendingReboot`	再起動の保留	更新を完了するために Windows が再起動を待っているかどうか。
`OSActivationStatus`	ライセンス認証	ライセンス認証済み、猶予期間中、通知モード、未認証などの状態。

プロダクト キー

プライバシー保護のため、次の 2 項目は定義済みプロファイルに含まれていません。デスクトップにキーを表示する必要がある場合だけ、カスタムプロファイルに追加してください。

キー	表示名	説明
`OSProductKey`	製品キー	現在の Windows インストールのプロダクトキー。
`OSOEMProductKey`	OEM製品キー	出荷時の Windows 用にメーカーが BIOS に保存した OEM プロダクトキー。

> **ヒント**
>
> 通常はデスクトップに常時表示する代わりに、通知領域のメニューから Windows のプロダクトキーを表示するダイアログを開き、必要なときだけクリップボードにコピーします。クリップボードとサポートを参照してください。

CPUとRAM

キー	表示名	説明
`Processor`	CPU	プロセッサのモデル名。
`CPUCoreCount`	論理プロセッサ数	プロセッサのコア数。
`TotalPhysicalMemory`	RAM	システムに搭載されている物理メモリ容量。
`SystemType`	システムタイプ	OS とプロセッサのアドレス幅。例：64 ビット OS、x64 ベース プロセッサ。

グラフィックスカード

キー	表示名	説明
`GPUs`	GPUについて	すべてのグラフィックスアダプターのメモリと現在の使用率。独立型では専用ビデオメモリ、統合型では共有システムメモリを表示します。
`GPUName`	GPU	個々のグラフィックスアダプターの名称。
`GPUMemory`	専用のGPU RAM	個々のグラフィックスアダプターの専用ビデオメモリ。

ハードウェア情報

キー	表示名	説明
`SystemManufacturer`	システム製造元	コンピューターのメーカー。
`SystemModel`	システムモデル	コンピューターのモデル名。
`SystemSerialNumber`	シリアルナンバー	コンピューターのシリアル番号。資産管理や問い合わせに使えます。
`MotherboardManufacturer`	マザーボードメーカー	マザーボードのメーカー。
`MotherboardModel`	マザーボードモデル	マザーボードのモデル名・製品名。
`BIOSVersion`	BIOSバージョン	使用中の BIOS または UEFI ファームウェアのバージョン。
`BIOSReleaseDate`	BIOSリリース日	使用中のファームウェアの公開日。

システム現状

キー	表示名	説明
`SystemUptime`	システムの稼働時間	前回のシステム起動からの経過時間。
`LastBootTime`	最後の起動時間	前回システムを起動した日時。
`SecureBootEnabled`	セキュアブート	セキュア ブートが有効かどうか。
`TPMVersion`	TPM版	トラステッド プラットフォーム モジュール（TPM）のバージョンと状態。
`PageFileSize`	ページファイルサイズ	仮想メモリ用ページファイルの設定。

バッテリー情報

バッテリーを搭載した機器でのみ表示されます。デスクトップ PC など、バッテリーのない環境では該当する行が隠れます。

キー	表示名	説明
`BatteryStatus`	バッテリーの状態	放電中、AC 電源接続、充電中、満充電、一部充電済み、残量低下、残量危険などの現在の状態。
`BatteryChargePercent`	バッテリー充電量	充電率（%）。
`BatteryEstimatedTime`	残りバッテリー時間	推定残り駆動時間。Windows が十分なデータを集めるまでは計算中となります。
`BatteryHealth`	バッテリーの健全性	設計容量に対する現在の満充電容量の割合（%）と、両方の容量（Wh）。

仮想マシン情報

キー	表示名	説明
`VMStatus`	仮想マシン	物理ハードウェア上か仮想マシン上かを示します。
`VMVendor`	VMベンダー	仮想マシンまたはハイパーバイザーのベンダー。
`VMProduct`	VM製品	仮想マシンの製品名とプラットフォーム。
`VMVersion`	VMバージョン	仮想化基盤またはゲストツールのバージョン。
`VMHypervisorPresent`	ハイパーバイザーの存在	システムにハイパーバイザーが存在するかどうか。
`VMGuestTools`	ゲストツール	仮想マシン内にインストールされているゲスト拡張機能・ツール。

ネットワーク(基本)

ネットワークの値は、選択中のアダプターに関する情報です。既定では自動選択ですが、通知領域の **ネットワークアダプター** で固定できます。通知領域のメニューを参照してください。

キー	表示名	説明
`NetworkInterface`	ネットワークアダプター	ネットワークアダプターの名称。
`ConnectionType`	接続タイプ	Ethernet または Wi-Fi の区別と、無制限か従量制（モバイル接続など）かを表示します。
`PhysicalAddress`	MAC アドレス	アダプターの MAC アドレス。
`IPv4AddressLocal`	IPv4アドレス	ローカル IPv4 アドレス。
`IPv6AddressLocal`	IPv6アドレス	ローカル IPv6 アドレス。

ネットワーク(上級)

キー	表示名	説明
`IPv4SubnetMask`	IPv4サブネットマスク	アダプターの IPv4 サブネットマスク。
`IPv4DefaultGateway`	IPv4デフォルトゲートウェイ	IPv4 の既定のゲートウェイ。
`IsDHCPEnabled`	DHCP有効	DHCP でアドレスを取得するかどうか。
`IPv4DHCPServers`	IPv4 DHCPサーバー	IPv4 の DHCP サーバー一覧。
`IPv4DNSServers`	IPv4 DNSサーバー	IPv4 の DNS サーバー一覧。
`IPv4WINSServers`	IPv4 WINSサーバー	IPv4 の WINS サーバー一覧。
`IPv6AddressLinkLocal`	リンクローカルIPv6アドレス	リンクローカル IPv6 アドレス。
`IPv6DefaultGateway`	IPv6デフォルトゲートウェイ	IPv6 の既定のゲートウェイ。
`IPv6DHCPServers`	IPv6 DHCPサーバー	IPv6 の DHCP サーバー一覧。
`IPv6DNSServers`	IPv6 DNSサーバー	IPv6 の DNS サーバー一覧。
`IPv6WINSServers`	IPv6 WINSサーバー	IPv6 の WINS サーバー一覧。

システムの利用

指標には現在・最小・最大などの数値を表示する行と、時間ごとの変化を示す履歴グラフがあり、それぞれ独立して選べます。パフォーマンスグラフを参照してください。

キー	表示名	説明
`CPUUtilization`	CPU	プロセッサ負荷の現在値、最小値、最大値、平均値。
`CPUUtilizationGraph`	CPU	プロセッサ負荷の履歴グラフ。
`RAMAvailability`	RAM	使用可能な物理メモリの現在値、最小値、最大値、平均値。
`RAMAvailabilityGraph`	RAM	使用可能な物理メモリの履歴グラフ。
`GPUUtilization`	GPU	最も負荷の高いグラフィックスエンジンの使用率と、その最小値、最大値、平均値。
`GPUUtilizationGraph`	GPU	GPU 使用率の履歴グラフ。

> **注記**
>
> 一部のリモートデスクトップセッションなどでは GPU 使用率を取得できません。この場合、プロファイルの設定にかかわらず GPU の行は自動で隠れます。

ネットワーク利用

キー	表示名	説明
`BytesSentPerSecond`	送信された通信	アダプターの送信レートと最小値、最大値、平均値。
`BytesSentPerSecondGraph`	送信された通信	送信レートの履歴グラフ。
`BytesReceivedPerSecond`	受信したトラフィック	アダプターの受信レートと最小値、最大値、平均値。
`BytesReceivedPerSecondGraph`	受信したトラフィック	受信レートの履歴グラフ。

グラフの表示メニューでネットワークトラフィックの Mb/s 表示を切り替え、ビット毎秒（既定、例：Mb/s）またはバイト毎秒（例：MB/s）を選べます。

ドライブ

キー	表示名	説明
`LocalDrives`	ローカル ドライブ	すべての内蔵ドライブの容量、空き容量、使用率バー。
`RemovableDrives`	取り外し可能なドライブ	USB メモリ、メモリカード、外付けドライブ。
`NetworkDrives`	ネットワークドライブ	割り当て済みネットワークドライブの容量、空き容量、到達可能かどうか。

色、アクセス表示、応答しないネットワークドライブについてはドライブと USB デバイスを参照してください。

パフォーマンスグラフ

グラフには現在値に加え、負荷の推移が表示されます。数秒ごとの CPU 負荷の上昇、使用可能なメモリの継続的な減少、バックアップによる回線の飽和などを把握できます。

測定対象

次の 4 種類を継続的に取得します。

指標	単位	内容
CPU 使用率	%	全コアを通した負荷。
使用可能な RAM	バイト	使用中の量ではなく、現在使用できる物理メモリ。
GPU 使用率	%	最も使用率が高いグラフィックスエンジンの負荷。
ネットワーク通信量	Mb/s または MB/s	送信と受信を別々のグラフで表示。

指標ごとに数値の行と履歴グラフを一緒に、または別々に表示できます。キーはシステム情報を参照してください。

現在値、最小値、最大値、平均値

数値の行には現在値と、起動後に収集したサンプルに基づく統計を表示します。

- ▼ は最小値です。
- ▲ は最大値です。
- Ø は平均値です。

起動直後の変動を避けるため、平均値は一定数のサンプルが集まってから表示されます。既定は 32 件で、`PerformanceAverageMinSampleCount` で変更できます。

グラフの読み方

最新値が右端に加わり、時間の経過とともに左へスクロールします。

- **自動スケール。** ネットワークグラフは表示範囲内の最大値に合わせるため、毎秒数 KB の通信でも数 GB の通信でも変化を確認できます。
- **目盛り。** 現在の表示範囲の最大値が右上に記載されます（例：`125 MB/s`）。
- **基準線。** 高さの中央（50%）に水平の破線があります。

- **ツールチップ。** スライドウィンドウでグラフにポインターを合わせると、単位付きの現在・最小・最大・平均値を確認できます。
- **色。** 指標ごとに色を分け、複数のグラフを見分けやすくしています。

グラフの表示を切り替える

通知領域のメニューでグラフの表示を設定します。

項目	動作
CPU使用率グラフ	CPU の履歴グラフを表示・非表示にします。
RAM使用率グラフ	RAM の履歴グラフを表示・非表示にします。
GPU使用率グラフ	GPU の履歴グラフを表示・非表示にします。
ネットワークトラフィックグラフ	送信と受信の両方のグラフを表示・非表示にします。
ネットワークトラフィックを Mb/s で表示	オン（既定）はビット毎秒、オフはバイト毎秒で表示します。

グラフが表示されるには、プロファイルに該当するグラフが含まれ、対応するスイッチもオンであることが必要です。プロファイルを編集せずに個別のグラフを一時的に隠せます。

構成ファイルでは `ShowCPUGraph`、`ShowRAMGraph`、`ShowGPUGraph`、`ShowNetworkGraph`、`ShowNetworkTrafficInBitsPerSecond` を使います。

グラフの寸法

構成ファイル

寸法は構成ファイルで変更します。

```
<Settings>
 <PerformanceGraphHeight>48</PerformanceGraphHeight>
 <PerformanceGraphMinWidth>200</PerformanceGraphMinWidth>
</Settings>
```

- `PerformanceGraphHeight`：各グラフの高さ（既定 48 ピクセル）。高くすると小さな変化も見やすくなります。
- `PerformanceGraphMinWidth`：最小幅（既定 200 ピクセル）。列に余裕があればその幅まで広がります。

列の均等配置では高いグラフほど重く数えるため、同じ列に配置されるほかの行は少なくなります。

通知領域のアイコン

アイコン自体が直近の CPU 負荷を示すグラフになっています。ほかのウィンドウがデスクトップを覆っていても確認できます。

ポインターを合わせると CPU、RAM、ネットワークの現在値が表示されます。ダブルクリックするとタスク マネージャーが開きます。この動作は **ダブルクリックでタスクマネージャーを起動** で無効にできます。

更新速度

更新速度 は次の 3 種類の間隔をまとめて制御します。

設定	情報表示	ドライブのアクセス表示	CPU／RAM カウンター
早く	1 秒	1 秒	2 秒
ノーマル（既定）	5 秒	2 秒	10 秒
遅い	10 秒	5 秒	20 秒

高速では滑らかになりますが CPU 負荷が少し増え、低速ではバッテリー消費を抑えられます。`UpdateSpeed` で別の秒数を指定すると **カスタム** が表示されます。

履歴の長さ

構成ファイル

既定では指標ごとに最大 1024 サンプルを保存します。通常の間隔では約 17〜34 分で、画面に収まる範囲より長く、最小・最大・平均値を求めるのにも使用します。

```
<Settings>
 <MaxHistoryItems>1024</MaxHistoryItems>
 <PerformanceAverageMinSampleCount>32</PerformanceAverageMinSampleCount>
</Settings>
```

長期間の極値を見るには `MaxHistoryItems` を増やし、メモリ消費を抑えるには減らしてください。

スタンバイと休止状態

Windows のサスペンド中はタイマーとカウンターを止め、復帰時に再開して表示を更新します。休止時間でグラフや極値が乱れるのを防ぎます。

効率モード

既定で有効な **効率モードの使用** は、低いスレッド優先度と、対応機器では高効率コアを使用するよう Windows に要求し、監視に要する電力を抑えます。非対応の Windows ではこの項目は表示されません。

ドライブと USB デバイス

ドライブは次の 3 種類に分けて表示され、どのグループをデスクトップに表示するか選べます。

ドライブの種類

種類	キー	内容
ローカル ドライブ	`LocalDrives`	内蔵固定ドライブ。
着脱式ドライブ	`RemovableDrives`	USB メモリ、メモリカード、外付けドライブ。
ネットワークドライブ	`NetworkDrives`	割り当て済みネットワークドライブ。

ドライブ文字、ラベル、総容量、空き容量、使用率バーが表示されます。

ドライブ使用率のバー

バーの長さは使用率を表し、空きが少なくなると色が変わります。

使用率	色	意味
90% 未満	緑	通常
90% 以上 95% 未満	黄	警告。空き容量が少なくなっています。
95% 以上	赤	空き容量がごく少ない状態。

通常、警告、危険、背景の色は、構成ファイルの `FillColorNormal`、`FillColorWarning`、`FillColorCritical`、`FillColorBackground` で変更できます。

ドライブのアクセス表示

通知領域の **ドライブのアクティビティを表示** でドライブごとにインジケーターを表示できます。物理的なディスク LED の代わりに使え、読み取りと書き込みが別々に示されます。

検出間隔は更新速度に従い、高速で 1 秒、通常で 2 秒、低速で 5 秒です。

切り替えるとパフォーマンスカウンターを初期化し直すため、プログラムが再起動します。構成要素は `ShowDriveActivity` です。

> **ヒント**
>
> **ドライブ専用** プロファイルは 3 種類のドライブをラベルなしでまとめて表示します。画面の隅に置けば、アクセス状況を常時確認できます。

応答しないネットワークドライブ

割り当て先のサーバーに接続できないと、情報取得に時間がかかります。O&O DeskInfo はバックグラウンドで照会し、応答しないドライブにはバーの代わりに × を表示します。ほかの項目の更新は続きます。

表はその場で更新されます。行の位置が入れ替わったり、一時的に長い名前が表示されて列幅が頻繁に変わったりすることを防ぎます。

未知の USB デバイスの警告

通知領域の **未知のUSBデバイスに警告** は既定でオフです。有効にすると、初めて接続した USB ストレージの説明、容量、ドライブ文字が通知されます。

通知では次のいずれかを選べます。

ボタン	動作
一度だけ信じる	今回の接続だけを信頼します。次に接続すると再び確認されます。
常に信じて	デバイスを記録し、次回から通知を表示しません。

提供元不明の USB ストレージには有害なファイルが含まれることがあります。心当たりがなければ中のファイルを開かないでください。

常時信頼するデバイスは `TrustedUSBDevices` に保存されます。再び警告させるには該当する項目を削除し、すべてリセットするには要素全体を削除します。

警告の有効・無効は `ShowUnknownUSBDeviceNotification` で指定します。

表示プロファイル

表示プロファイルは**何を、どの順番で、どの列に表示するか**を決めます。定義済みの 4 種類に加え、自分で作成して保存できます。

通知領域の **表示された情報** で切り替えます。

定義済みのプロファイル

既定

初回起動時に使われる推奨プロファイルです。次の順序でカテゴリを表示します。

案内、ユーザーとコンピューター、OS、CPU と RAM、グラフィックス、ハードウェア、システム状態、バッテリー、ネットワーク（基本）、ネットワーク（詳細）、仮想マシン、ローカルドライブ、リムーバブルドライブ、ネットワークドライブ、システム使用状況、ネットワーク使用状況。

見やすいよう、あらかじめ 3 列に割り当てられています。

列	カテゴリ
1	案内、ユーザーとコンピューター、OS、CPU と RAM、グラフィックス、ハードウェア、システム状態
2	バッテリー、ネットワーク（基本／詳細）、仮想マシン
3	ローカル／リムーバブル／ネットワークドライブ、システム使用状況、ネットワーク使用状況

フル

標準と同じカテゴリを表示しますが、列は固定しません。列の均等配置で自動的に割り当てます。

最低限

案内、ユーザーとコンピューター、OS に絞ります。PC 名と Windows のバージョンなど、基本情報だけを表示したい場合に適しています。

ドライブ専用

3 種類のドライブをラベルなしでコンパクトに表示します。ドライブのアクセス表示と組み合わせて専用パネルとして使えます。

プロファイルエディター

表示された情報 → カスタムプロファイルを編集... で独自のプロファイルを作成します。

プロファイルを作成する

1. **プロファイル名**：メニューに表示する名前を指定します。表示名が未設定のプロファイルには「カスタム」が使用されます。
2. **表示するカテゴリ**：必要なものにチェックを入れます。内容はカテゴリ一覧を参照してください。
3. **順序**：選択したカテゴリを ▲ または ▼ で動かします。リストの順序が表示順になります。
4. **列**：カテゴリごとに配置先を指定します。

- **自動**（既定）：レイアウトに合わせて自動で割り当てます。
- **1〜4**：指定した番号の列に固定します。

5. **OK** で保存するとすぐに適用されます。

次の編集補助ボタンがあります。

ボタン	動作
現在のプロファイルを読み込む	現在のプロファイルをひな形として読み込みます。標準やフルから始められますが、未保存の編集は置き換えられます。
クリア	すべての選択を解除し、プロファイルを初期化します。

少なくとも 1 つのカテゴリを選び、空でない名前を入力してください。足りない場合は入力を促されます。

列の割り当て

自動 と固定列は併用できます。位置が重要な 2〜3 個のカテゴリだけ固定し、残りを自動配置することもできます。

手動で固定すると便利な例は次のとおりです。

- ネットワーク情報など、関連項目を同じ列にまとめる。
- 多数のドライブに専用の列を確保する。
- 案内メッセージを第 1 列の先頭に置き、目につきやすくする。

インポートとエクスポート

プロファイルは別の PC に移せます。

- **エクスポート…** は列の割り当てを含めて XML ファイルに保存します。
- **インポート...** は保存済みの XML ファイルからプロファイルと列の割り当てを復元します。

1 台で準備してほかに配布する場合に便利です。構成ファイルの準備と組み合わせる方法は組織への展開を参照してください。

構成ファイルで定義する

エディターと同じ設定を構成ファイルに直接記述できます。自動展開でよく使う方法です。

```
<Settings xmlns="https://www.oo-software.com">
 <SelectedProfile>Custom</SelectedProfile>
 <CustomProfile>
 <Name>Custom</Name>
 <DisplayName>IT Support Profile</DisplayName>
 <ShowLabels>true</ShowLabels>
 <Keys>
 <Item>InfoMessage</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>UserAndMachine</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>OS</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>CPU</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>NetworkBasic</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>Performance</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>LocalDrives</Item>
 </Keys>
 <ColumnAssignments>InfoMessage:0;UserAndMachine:0;OS:0;Performance:1;LocalDrives:2</Col
 </CustomProfile>
</Settings>
```

各要素の意味

要素	説明
`Name`	内部名。特別な理由がなければ `Custom` を使います。
`DisplayName`	メニュー上の表示名。空なら「カスタム」を使います。
`ShowLabels`	`true`（既定）で値の前にラベルを表示し、`false` では値だけを表示します。
`Keys`	表示項目の一覧。個々の項目は `<Item>` 要素に記述します。
`ColumnAssignments`	任意の固定列割り当て。下記を参照してください。

Keys の一覧

それぞれの `<Item>` に次のいずれかを記述します。

- `UserAndMachine`、`OS`、`Performance` などの**カテゴリキー**。カテゴリ一覧を参照してください。
- `MachineName` や `IPv4AddressLocal` などの**個別の値のキー**。システム情報を参照してください。
- 区切りの `-`。グループ間に縦の間隔を追加します。

カテゴリと個別のキーは混在できます。たとえば PC 名、IP アドレス、C: ドライブの使用状況だけを表示する構成もできます。

区切りが連続した場合は 1 つにまとめられます。

ColumnAssignments の書式

`ColumnAssignments` には `Category:ColumnIndex` の組をセミコロンで区切って記述します。**列番号は 0 始まり**で、`0` が第 1 列、`1` が第 2 列、最後の第 4 列は `3` です。

```
InfoMessage:0;UserAndMachine:0;OS:0;Performance:1;LocalDrives:2
```

指定しなかったカテゴリはエディターの **自動** と同様に自動で配置されます。

使用するプロファイルを選ぶ

`SelectedProfile` で指定します。

値	プロファイル
`Default`	標準プロファイル。設定がない場合や空の場合もこれを使います。
`Full`	すべて
`Minimum`	最小
`DriveLED`	ドライブのみ
その他の値	`CustomProfile` で定義したプロファイル

> **注記**
>
> 定義済みのプロファイル自体は変更できません。標準を基に変更するには、エディターで **現在のプロファイルを読み込む** をクリックし、編集後に自分のプロファイルとして保存してください。

クリップボードとサポート

同僚や IT 部門にシステム情報を渡す場合や、問い合わせに添付する場合は、画面を見ながら転記せずに必要な値をまとめてコピーできます。

情報をクリップボードにコピーしてください

通知領域のアイコンを右クリックし、**情報をクリップボードにコピーしてください** を選びます。現在の表示プロファイルの情報が、ラベルの位置をそろえたプレーンテキストとしてコピーされます。メールやウェブフォームに貼り付けても読みやすい形式です。

コピー後、メモ帳で開くか確認されます。**はい** を選ぶと一時ファイルを作成して開きます。**いいえ** ならクリップボードに保持され、`Ctrl+V` で貼り付けられます。

コピーに含まれるものは次のとおりです。

- 現在のプロファイルの各値。設定順に並び、区切りは空行になります。
- 報告を作成した O&O DeskInfo のバージョン。
- **グラフはテキストに含まれません。** 対応する数値の行（現在、最小、最大）は含まれます。

> **ヒント**
>
> できるだけ多くの情報を送る場合は先に **フル** を選び、コピー後に普段のプロファイルに戻してください。

メモ帳への出力には一時ファイル `%Temp%\DeskInfo.txt` を使用します。

Windows プロダクト キー

通知領域のメニューで Windows のプロダクトキーを表示する項目を選ぶと、次のキーが表示されます。

- 現在の Windows インストールの**プロダクトキー**。
- 存在する場合は、メーカーが出荷時の Windows 用に BIOS に保存した **OEM プロダクトキー**。

すべてのキーをクリップボードにコピーでき、必要ならメモ帳でも開けます。Windows の再インストールに備え、安全な場所に保管してください。

有効なキーが読み取れない場合、この項目は表示されません。メモ帳への出力先は `%Temp%\ProductKey.txt` です。

> **注記**
>
> 定義済みプロファイルではプロダクトキーを表示しません。共有オフィスや画面共有で見えてしまうおそれがあるためです。表示が必要な場合だけ、カスタムプロファイルに `OSProductKey` と `OSOEMProductKey` を追加します。

デスクトップに案内文を表示する

構成ファイル

`InfoMessage` でシステム情報の上に任意の 1 行を表示できます。管理対象 PC では、ヘルプデスクの連絡先を常時表示する用途に使えます。

```
<Settings>
 <InfoMessage>IT Help Desk: helpdesk@example.com | Phone: +49 30 1234-5678</InfoMessage>
</Settings>
```

表示には使用中のプロファイルに `InfoMessage` が必要です。すべての定義済みプロファイルでは先頭に含まれています。組織への展開を参照してください。

簡単なセットアップ

クイック設定で初期設定ウィザードの設定ページを再度開けます。ひとつの画面で次を調整できます。

- Windows サインイン時の自動起動
- 表示プロファイル
- モニター選択
- プレビュー付きの表示位置
- 文字サイズと不透明度

モニター構成や壁紙を変更したときに、複数の項目をまとめて調整できます。

バージョン情報とオンラインヘルプ

メニュー項目	用途
オンラインヘルプ	本書をブラウザーで開きます。
バージョン情報	製品バージョン、Windows の概要、使用許諾契約、オンラインヘルプ、新版の確認へのリンクを表示します。
O&O の関連製品	ほかの Windows 用 O&O ツールの案内を表示します。

バージョン情報で、台数制限なく使用・配布できる**フリーウェア**であることも確認できます。第三者のインストーラーやほかのソフトウェアとの同梱は利用条件に反するため、見つけた場合は配布元をお知らせください。

ログの記録

構成ファイル

調査用の詳細ログを有効にするには、次のように設定します。

```
<Settings>
 <LogEnabled>true</LogEnabled>
</Settings>
```

ログは `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log` に保存されます。調査時だけ有効にし、O&O サポートへの問い合わせに添付してください。

問い合わせ先

- **サポートポータル：** www.oo-software.com/en/support
- **メール：** support@oo-software.com

問い合わせには **情報をクリップボードにコピーしてください** の出力とログファイルを添付してください。連絡先と製品紹介はサポートと O&O の関連製品にも掲載しています。

通知領域のメニュー

O&O DeskInfo の日常操作は、Windows の**通知領域にあるアイコンを右クリック**して行います。メニューバーのあるメインウィンドウを開く必要はありません。

以下ではメニューの表示順に説明します。変更はすぐに適用され、構成ファイルにも保存されます。

> **注記**
>
> 項目は状況に応じて表示されます。**モニター** と **ネットワークアダプター** は選択肢が 1 つしかないと表示されません。スライドウィンドウ専用の項目はデスクトップ統合時には表示されず、Windows のプロダクトキーを取得できない場合はキー表示項目も隠れます。効率モード非対応の Windows では **効率モードの使用** が表示されません。

表示された情報

使用する表示プロファイルを選びます。

項目	説明
フル	全カテゴリを自動で列に割り当てます。
既定	推奨項目を 3 列に配置します。
最低限	案内メッセージ、ユーザー・コンピューター、OS を表示します。
ドライブ専用	ラベルを省き、すべてのドライブをコンパクトに表示します。
カスタム	自作のプロファイル。作成後に、その名前で表示されます。
カスタムプロファイルを編集...	プロファイルエディターを開きます。表示プロファイルを参照してください。

位置

表示する画面の隅、またはスライドウィンドウを引き出す側を選びます。

項目	使用できるモード
左／右	水平方向に開くスライドウィンドウで使用します。
左上／右上／左下／右下	デスクトップ統合モードで使用します。

既定は **右上** です。

ネットワークアダプター

アダプター名、IP アドレス、ゲートウェイ、DNS サーバー、送受信グラフの対象となるアダプターを 1 つ選びます。

項目	説明
自動的に	Windows が現在外向きの通信に使うアダプターを選びます（推奨）。
アダプター名	指定したものに固定します。使用可能なものにはアクティブであることが示されます。

ループバックアダプターは表示されません。アダプターを変更すると、ネットワーク情報を取り直すためプログラムが再起動します。

Monitor

項目	説明
全モニター	接続中のすべてのモニターに同時に表示します。複数台接続されている場合に選べます。
モニター 1、**モニター 2** など	指定したモニターだけに表示します。番号は Windows のディスプレイ設定に対応し、メインモニターにはその旨が表示されます。

表示先を変更すると再起動します。モニターの接続や切断は自動でメニューに反映されます。

表示の設定

パネルの表示形式や外観を指定します。

項目	説明
デスクトップに統合して表示	オン（既定）でデスクトップ統合、オフでスライドウィンドウになります。表示モードを参照してください。
常に手前に表示	スライドウィンドウをほかのウィンドウより手前に表示します。
デスクトップで表示ボタン	スライドウィンドウを開く画面端のタブを表示・非表示にします。非表示の場合は通知領域のアイコンから開閉できます。

テキストカラー

項目	説明
自動的に	既定。壁紙の明るさに応じて文字を黒または白にし、壁紙の変更にも追従します。
白(デフォルト)	白に固定します。
ライトグレー、グレー、ダークグレー	目立ちにくいグレー系の固定色です。
黒、赤、緑、青	選んだ色に固定します。
カスタム	構成ファイルにメニュー外の色が指定されたときだけ表示されます。現在の色を示す項目で、選択しても変更されません。

固定色を選ぶと自動調整はオフになります。

ボタンの色

スライドウィンドウのタブボタンの色です。**青(デフォルト)**、**白**、**黒**、**赤**、**緑**、**オレンジ** から選べます。構成ファイルに別の色を指定すると **カスタム** と表示されます。

背景不透明度

スライドウィンドウの背景の不透明度です。**満杯(100%)**、**中程度(80%)**（既定）、**低(40%)** から選べます。構成ファイルでほかの値を指定すると **カスタム** と表示されます。

フォントサイズ

項目	文字サイズ
スモール(10ポイント)	10 ポイント
レギュラー(12ポイント)	12 ポイント（既定）
ラージ(14ポイント)	14 ポイント
カスタム	構成ファイルで別のサイズを指定しています。

表示の不透明度

パネル全体の不透明度です。**満杯(100%)**、**中程度(80%)**（既定）、**低(40%)**、または別の値を示す **カスタム** があります。値が小さいほど壁紙が透けて見えます。

クイック設定

初期設定ウィザードの設定ページを再び開きます。自動起動、表示プロファイル、モニター、プレビュー付きの位置、文字サイズと不透明度をまとめて指定できます。クリップボードとサポートを参照してください。

Windows 起動時に実行

現在のユーザーの自動起動を登録・解除します。登録するとサインインのたびに起動し、管理者権限は不要です。

無人展開には `SetAutoRun` を使用してください。

ドライブのアクティビティを表示

ドライブごとの読み書きのインジケーターを表示します。物理的なアクセス LED の代わりに使えます。切り替えるとパフォーマンスカウンターを初期化するため再起動します。ドライブと USB デバイスを参照してください。

未知のUSBデバイスに警告

既定はオフです。有効にすると、未登録の USB ストレージの接続時に通知され、今回だけ信頼するか常に信頼するかを選べます。未知の USB デバイスの警告を参照してください。

グラフの表示

項目	説明
CPU使用率グラフ	CPU の履歴グラフを表示・非表示にします。
RAM使用率グラフ	RAM の履歴グラフを表示・非表示にします。
GPU使用率グラフ	GPU の履歴グラフを表示・非表示にします。
ネットワークトラフィックグラフ	送信と受信の両方のグラフを表示・非表示にします。
ネットワークトラフィックを Mb/s で表示	オン（既定）でビット毎秒、オフでバイト毎秒になります。

スイッチは現在のプロファイルをさらに絞り込みます。プロファイルにグラフが含まれ、対応するスイッチもオンの場合だけ表示されます。

更新速度

表示値を更新する間隔です。

項目	情報表示	ドライブのアクセス表示	CPU／RAM カウンター
早く	1 秒	1 秒	2 秒
ノーマル	5 秒	2 秒	10 秒
遅い	10 秒	5 秒	20 秒
カスタム	構成ファイルでほかの間隔が指定されています。		

既定は**ノーマル**です。更新を速くするとグラフが滑らかになる一方、CPU 負荷が少し増えます。

効率モードの使用

既定はオンです。Windows に対してスレッド優先度を下げ、対応機器では高効率コアで実行するよう要求します。効率モード非対応の Windows では表示されません。

ダブルクリックでタスクマネージャーを起動

既定はオンです。アイコンをダブルクリックしてタスク マネージャーを開くかを切り替えます。

Windows のプロダクトキーを表示

Windows のプロダクトキーと、取得可能なら BIOS にある OEM キーを表示します。両方をクリップボードにコピーできます。キーを読み取れない場合はこの項目が表示されません。Windows のプロダクトキーを参照してください。

情報をクリップボードにコピーしてください

現在のプロファイルの情報を整形したプレーンテキストでクリップボードへコピーし、メモ帳で開くか確認します。情報のコピーを参照してください。

Language

項目	説明
システム言語の使用	既定。Windows の表示言語に従います。
言語名	表示言語を固定します。

日本語を含め、使用中のバージョンで対応している言語を選べます。変更はすぐに適用され、再起動は不要です。構成ファイルでは `Language`、コマンドラインでは `/lang` で指定します。

オンラインヘルプ

ブラウザーで本書を開きます。

バージョン情報

O&O DeskInfo のバージョン、Windows の概要、使用許諾契約、オンラインヘルプ、新版の確認へのリンクが表示されます。

O&O の関連製品を表示

O&O ShutUp10++、O&O AppBuster など、無料ツールを含む Windows 用 O&O 製品の案内を開きます。

終了

O&O DeskInfo を終了し、デスクトップ表示と通知領域のアイコンを消します。設定はすでに保存されています。

メニューの非表示と操作制限

構成ファイル

管理環境では `TrayMenu` でメニューを制限または非表示にし、`IsRestricted` で設定変更を禁止できます。組織への展開を参照してください。

構成ファイル

O&O DeskInfo の設定はひとつの XML ファイルに保存されます。通知領域のメニューで使う設定のほか、余白、任意の色、グラフの寸法と履歴数、ヘルプデスクの案内文、管理対象 PC の制限も指定できます。

以下は各要素のリファレンスです。

構成ファイルの保存先

ファイル名は **`OODeskInfo.cfg`** です。次の順に検索します。

1. コマンドラインで `/cfg` を指定した場合は、そのパスを使用します。
2. **`OODeskInfo.exe` と同じフォルダー**に `OODeskInfo.cfg` があれば、そのファイルを使用します。USB メモリで実行ファイルと設定を一緒に持ち運べます。
3. それ以外は**ユーザープロファイル**の `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\OODeskInfo.cfg` を使用し、存在しなければ作成します。

> **ヒント**
>
> 有効な構成ファイルを用意するには、一度起動して終了し、`%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\` に作成されたファイルを開いてください。現在値が既に記入されています。

XML の構造と書式

```
<?xml version="1.0"?>
<Settings xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3
 <Language>en</Language>
 <PanelPosition>RightTop</PanelPosition>
 <TextSize>12</TextSize>
</Settings>
```

次の規則に従ってください。

- ルート要素は **`<Settings>`** です。既定の XML 名前空間は宣言しません。
- 要素名は**大文字と小文字を区別**します。本書の表記に正確に合わせてください。
- **真偽値**は小文字の `true` または `false` です。
- **色**には英語名（`White`、`Black`、`Red`、`Green`、`Orange` など）または `#RRGGBB`、`#AARRGGBB` 形式の 16 進値を使います。
- 各設定要素は省略可能です。省略すると既定値が使われるため、たとえば 2 項目だけでも有効です。

- 要素の順序は問いませんが、プログラムが書き出す順序を保つと比較しやすくなります。

変更の自動反映

ファイルの変更は監視され、保存後約 1 秒で適用されます。通常は再起動せず、エディターを開いたままデスクトップで結果を確認できます。

エディターが複数回に分けて保存することがあるため、書き込みが止まってから読み込みます。書き込み途中の内容が適用されるのを防ぐための待ち時間です。

多くの変更はグラフ履歴を保持したまま表示を再構築します。次の 4 項目は起動時にしか初期化されないリソースを使うため、変更するとプログラムが再起動します。

- `Monitor`
- `ShowOnAllMonitors`
- `NetworkAdapter`
- `ShowDriveActivity`

通知領域のメニューで変更した設定も、すぐに反映され、ファイルに保存されます。

> **注記**
>
> 実行中も列レイアウトのキャッシュなどが書き戻されます。編集中は現在のファイルを使用し、古いコピーで上書きして設定を巻き戻さないようにしてください。

> **警告**
>
> 閉じタグの欠落、不正な値や文字などで解析できない場合、同じフォルダーにタイムスタンプ付きの `.invalid` バックアップを作成し、既定値で開始します。壊れた内容も残るため、原因を調べて値を転記できます。

一般

Language

型：文字列、既定値：空 (システム言語)

表示言語を指定します。空の要素または `system` は Windows の表示言語に従います。指定できる言語は使用中のバージョンに従います。

値	表示言語
空 または `system`	Windows の表示言語
`en`	英語
`de`	ドイツ語
`fr`	フランス語

通知領域のメニューやコマンドラインの `/lang` からも指定できます。日本語の言語コードは ja です。

```
<Language>en</Language>
```

LogEnabled

型：真偽値、既定値： `false`

詳細ログを `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log` に保存します。問題の調査時に有効にし、サポートへの問い合わせに添付してください。

ShowWelcome

型：真偽値、既定値： `true`

起動時に初期設定ウィザードを開くかを指定します。完了後は自動的に `false` になります。再び表示するには `true`、管理対象 PC で初回から省略するには配布前に `false` にします。

UpdateSpeed

型：数値 (秒)、既定値： `5`

表示値の更新間隔です。メニューでは `1`（高速）、`5`（標準）、`10`（低速）を選べます。ほかの値はカスタムとして表示されます。ドライブのアクセス表示と CPU／RAM カウンターの間隔もこの値から算出します。更新速度を参照してください。

UseEfficiencyMode

型：真偽値、既定値： `true`

Windows に対し、プロセスを低い優先度で、対応するハードウェアでは高効率コアで実行するよう要求します。効率モード非対応の Windows では効果がありません。

LaunchTaskManager

型：真偽値、既定値： `true`

通知領域のアイコンをダブルクリックしたときに Windows タスク マネージャーを開くかを指定します。

位置とモニター

PanelPosition

型： `LeftTop` | `RightTop` | `LeftBottom` | `RightBottom`、*既定値：* `RightTop`

表示する画面の隅を指定します。

Monitor

型：数値、既定値： `0`

表示先のモニターを 0 から始まる番号で指定します。`0` は最初のモニターです。`ShowOnAllMonitors` が `true` のときは無視されます。

ShowOnAllMonitors

型：真偽値、既定値： `false`

`true` にすると、接続中のすべてのモニターに同じプロファイル、位置、外観で同時に表示します。

TopMargin, RightMargin, BottomMargin, LeftMargin

型：数値 (ピクセル)、既定値： `0`

デスクトップ統合モードで、画面端から表示までの余白を指定します。タスクバー、ドック、壁紙の一部などに重なるときに調整します。

```
<TopMargin>40</TopMargin>
<RightMargin>24</RightMargin>
<BottomMargin>0</BottomMargin>
<LeftMargin>0</LeftMargin>
```

IsIntegratedWithDesktop

型：真偽値、既定値： `true`

`true` ならデスクトップアイコンの背面の壁紙上に表示し、`false` ならスライドウィンドウを使用します。

DisplayAlwaysOnTop

型：真偽値、既定値： `false`

スライドウィンドウに限り、ほかのウィンドウより手前に表示します。

ShowButtonOnDesktop

型：真偽値、既定値： `true`

スライドウィンドウに限り、画面端のタブボタンを表示します。`false` のときは通知領域のアイコンから開閉します。

ButtonYPosition

型：数値、既定値：`175`

タブボタンの垂直位置（ピクセル）です。通常はマウスでドラッグして調整します。

外観

AutoAdjustTextColor

型：真偽値、既定値：`true`

`true` では壁紙の明るさに合わせて明るい背景は黒、暗い背景は白の文字を選び、`TextColor` を無視します。固定色を使うには `false` にします。

TextColor

型：色、既定値：`White`

固定する文字色です。`AutoAdjustTextColor` が `false` のときだけ有効です。メニューにない色も指定でき、その場合はカスタムと表示されます。

メニューで選べる色は次のとおりです。

メニューの色	値
白	`White`
ライトグレー	`#F2F2F2`
グレー	`#D9D9D9`
ダークグレー	`#838383`
黒	`Black`
赤	`Red`
緑	`Green`
青	`#3082CF`

TextSize

型：数値 (ポイント)、既定値： `12`

表示の文字サイズです。メニューからは `10`、`12`、`14` を選べ、ほかの値はカスタムと表示されます。

DisplayOpacity

型：数値 (%)、既定値： `80`

パネル全体の不透明度です。メニューからは `100`、`80`、`40` を選べます。

Opacity

型：数値 (%)、既定値： `80`

スライドウィンドウの背景の不透明度です。メニューからは `100`、`80`、`40` を選べます。

PanelColor

型：色、既定値： `#3082CF` *（青）*

スライドウィンドウのタブボタンの色です。メニューからは青（`#3082CF`）、`White`、`Black`、`Red`、`Green`、オレンジ（`#FF6A00`）を選べます。

FillColorNormal

型：色、既定値： `#FF82BC1D` *（緑）*

ドライブ使用率が 90% 未満のときのバーの色です。

FillColorWarning

型：色、既定値： `#FFFFBC00` *（黄）*

使用率が 90% 以上 95% 未満のときのバーの色です。

FillColorCritical

型：色、既定値： `#FFDD4A17` *（赤）*

使用率が 95% 以上のときのバーの色です。

FillColorBackground

型：色、既定値： `#FF838383` *（灰色）*

ドライブ使用率バーの背景色です。

列のレイアウト

UseBalancedColumnDistribution

型：真偽値、既定値： `true`

`true` は重みに基づいて各列に割り当てます。ラベルの行やドライブは 1 単位、グラフは高さに比例して数え、グループは分割しません。 `false` では項目を単純に順番に配置します。

BalancedColumnAlignment

型： `RightBound` | `LeftBound` *、既定値：* `RightBound`

列の高さをぴったりそろえられないときに短くする列を指定します。 `RightBound` は左端列を短くするので右寄せ向き、 `LeftBound` は右端列を短くするので左寄せ向きです。

グラフとパフォーマンス監視

ShowCPUGraph

型：真偽値、既定値： `true`

使用中のプロファイルに CPU 履歴グラフがあれば表示します。

ShowRAMGraph

型：真偽値、既定値： `true`

使用中のプロファイルに RAM 履歴グラフがあれば表示します。

ShowGPUGraph

型：真偽値、既定値： `true`

使用中のプロファイルに GPU 履歴グラフがあれば表示します。GPU データが取得できないシステムでは該当する行が自動で隠れます。

ShowNetworkGraph

型：真偽値、既定値： `true`

使用中のプロファイルに含まれていれば、ネットワークの送信・受信グラフを両方表示します。

ShowNetworkTrafficInBitsPerSecond

型：真偽値、既定値： `true`

`true` はビット毎秒で 10 進単位（b/s、Kb/s、Mb/s、Gb/s）、`false` はバイト毎秒で 2 進換算の単位（B/s、KB/s、MB/s、GB/s）を使います。

PerformanceGraphHeight

型：数値 (ピクセル)、既定値：`48`

各グラフの高さです。高くすると小さな変動を見分けやすくなり、列の配分でも大きな重みとして扱われます。

PerformanceGraphMinWidth

型：数値 (ピクセル)、既定値：`200`

グラフの最小幅です。列に余裕があれば、その幅まで拡大します。

MaxHistoryItems

型：数値、既定値：`1024`

指標ごとに保持するサンプル数です。通常の更新間隔では 1024 サンプルが約 17〜34 分に相当します。増やすと長期間の最小・最大値を確認でき、減らすとメモリ使用量を抑えられます。

PerformanceAverageMinSampleCount

型：数値、既定値：`32`

平均値を表示するまでに必要なサンプル数です。起動直後に平均値が大きく動くのを防ぎます。実際の上限は `MaxHistoryItems` です。

ドライブと USB デバイス

ShowDriveActivity

型：真偽値、既定値：`true`

ドライブごとの読み書きのアクティビティを表示します。

ShowUnknownUSBDeviceNotification

型：真偽値、既定値：`false`

まだ信頼していない USB ストレージを接続したときに通知します。

TrustedUSBDevices

型：文字列のリスト、既定値：空

常に信頼する USB デバイスの一覧です。該当項目を削除すると次回から再び警告し、要素全体を削除するとすべての信頼設定がリセットされます。

```
<TrustedUSBDevices>
 <string>USBSTOR\DISK&amp;amp;VEN_SANDISK&amp;amp;PROD_ULTRA&amp;amp;REV_1.00\4C530001…</string>
</TrustedUSBDevices>
```

ネットワーク

NetworkAdapter

型：文字列、既定値：空 (自動)

表示対象のネットワークアダプターの説明です。自動選択なら要素を省略します。Windows の説明文字列との完全一致が必要なので、まずメニューで選び、保存された値を読み取ってください。

プロファイル

SelectedProfile

型：文字列、既定値：`Default`

使用するプロファイルを指定します。

値	プロファイル
`Default`	標準
`Full`	すべて
`Minimum`	最小
`DriveLED`	ドライブのみ
その他の値	`CustomProfile` で定義したプロファイル

CustomProfile

型：要素、既定値：なし

独自プロファイルの定義です。構造と使用可能なキーは表示プロファイルを参照してください。

```
<CustomProfile>
 <Name>Custom</Name>
 <DisplayName>IT Support Profile</DisplayName>
 <ShowLabels>true</ShowLabels>
 <Keys>
 <Item>InfoMessage</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>UserAndMachine</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>OS</Item>
 </Keys>
 <ColumnAssignments>InfoMessage:0;UserAndMachine:0;OS:0</ColumnAssignments>
</CustomProfile>
```

展開と操作制限

次の 4 項目は管理環境用です。組み合わせ方は組織への展開を参照してください。

InfoMessage

型：文字列、既定値：空

システム情報の上に表示する任意の 1 行です。ヘルプデスクの連絡先などに使います。プロファイルに `InfoMessage` キーが含まれる場合だけ表示され、定義済みプロファイルにはすべて含まれています。

```
<InfoMessage>IT Help Desk: helpdesk@example.com | Phone: +49 30 1234-5678</InfoMessage>
```

SetAutoRun

型：真偽値、既定値：未設定

ユーザーに確認せず自動起動の登録を指定します。`true` で作成、`false` で削除します。要素を省略するとユーザーの設定を維持します。

IsRestricted

型：真偽値、既定値：未設定

`true` にすると読み取り専用になり、構成ファイルへの書き込みを止め、通知領域のメニューを隠します。配布した設定をユーザーが変更したり誤って壊したりするのを防ぎます。

TrayMenu

型： `Full` / `ExitOnly` / `HideMenu` / `HideAll`*、既定値：* `Full`

ユーザーに見せる通知領域のアイコンとメニューの範囲を指定します。

値	アイコン	メニュー
`Full`	表示	すべて
`ExitOnly`	表示	**終了** のみ
`HideMenu`	表示	なし
`HideAll`	非表示	なし

プログラムが管理する値

次の要素は自動で管理されます。通常は編集せず、配布用の構成ファイルからも除いてください。

要素	内容
`NewsletterSubscribed`	製品案内からニュースレターに登録したかどうか。
`ScrollViewerPosition`	表示領域のスクロール位置。
`SavedColumnLayout`	起動を速くするため保存された、前回の列レイアウト。
`LayoutEnvironmentFingerprint`	レイアウトの再計算が必要かを判断するための、モニター、解像度、文字サイズ、DPI、プロファイルの組み合わせ。
`WindowPosition`、`AppViewMode`	O&O 共通設定から継承した要素。O&O DeskInfo では使用しません。

完全な設定例

サポート用 PC の例です。ドイツ語、左下への表示、大きい文字、ヘルプデスクの連絡先を設定し、自動起動を強制して操作を制限します。

```
<?xml version="1.0"?>
<Settings xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3
 <!-- General -->
 <Language>de</Language>
 <LogEnabled>false</LogEnabled>
 <ShowWelcome>false</ShowWelcome>
 <UpdateSpeed>5</UpdateSpeed>

 <!-- Position -->
 <PanelPosition>LeftBottom</PanelPosition>
 <Monitor>0</Monitor>
 <ShowOnAllMonitors>false</ShowOnAllMonitors>
 <IsIntegratedWithDesktop>true</IsIntegratedWithDesktop>
 <TopMargin>0</TopMargin>
 <BottomMargin>48</BottomMargin>
 <LeftMargin>24</LeftMargin>

 <!-- Appearance -->
 <AutoAdjustTextColor>true</AutoAdjustTextColor>
 <TextSize>14</TextSize>
 <DisplayOpacity>100</DisplayOpacity>
 <UseBalancedColumnDistribution>true</UseBalancedColumnDistribution>
 <BalancedColumnAlignment>LeftBound</BalancedColumnAlignment>

 <!-- Graphs -->
 <ShowCPUGraph>true</ShowCPUGraph>
 <ShowRAMGraph>true</ShowRAMGraph>
 <ShowGPUGraph>false</ShowGPUGraph>
 <ShowNetworkGraph>true</ShowNetworkGraph>
 <ShowNetworkTrafficInBitsPerSecond>true</ShowNetworkTrafficInBitsPerSecond>
 <PerformanceGraphHeight>64</PerformanceGraphHeight>

 <!-- Drives and USB -->
 <ShowDriveActivity>true</ShowDriveActivity>
 <ShowUnknownUSBDeviceNotification>true</ShowUnknownUSBDeviceNotification>

 <!-- Profile -->
 <SelectedProfile>Custom</SelectedProfile>
 <CustomProfile>
 <Name>Custom</Name>
 <DisplayName>Support</DisplayName>
 <ShowLabels>true</ShowLabels>
 <Keys>
 <Item>InfoMessage</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>UserAndMachine</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>OS</Item>
```

```
  <Item>-</Item>
  <Item>CPU</Item>
  <Item>-</Item>
  <Item>NetworkBasic</Item>
  <Item>-</Item>
  <Item>LocalDrives</Item>
  <Item>-</Item>
  <Item>Performance</Item>
  </Keys>
  <ColumnAssignments>InfoMessage:0;UserAndMachine:0;OS:0;CPU:0;NetworkBasic:1;LocalDrives
  </CustomProfile>

  <!-- Deployment -->
  <InfoMessage>IT Help Desk: helpdesk@example.com | Phone: +49 30 1234-5678</InfoMessage>
  <SetAutoRun>true</SetAutoRun>
  <IsRestricted>true</IsRestricted>
  <TrayMenu>ExitOnly</TrayMenu>
</Settings>
```

注記

編集時には XML コメント（`<!-- … -->`）を使えますが、プログラムが書き戻すと失われます。コメント付きの原本はクライアントではなく配布用共有フォルダーに保管してください。

コマンドラインパラメーター

2 つのパラメーターを使用できます。どちらも自動展開向けで、個々のユーザープロファイルを事前に編集せずに構成や言語を指定できます。

```
OODeskInfo.exe [/cfg:<file path>] [/lang:<code>]
```

/cfg で構成ファイルを指定する

```
OODeskInfo.exe /cfg:"C:\IT\OODeskInfo.cfg"
```

既定の保存先に代えて、指定したパスから設定を読み込みます。**既存のファイル**を指定してください。見つからないと使い方とエラーを表示して終了します。

空白を含むパスは引用符で囲みます。

> **ヒント**
>
> ポータブル運用では `OODeskInfo.cfg` を **`OODeskInfo.exe` と同じフォルダー**に置けば、自動で選ばれるため指定は不要です。構成ファイルの保存先を参照してください。

/lang で表示言語を指定する

```
OODeskInfo.exe /lang:en
```

言語は 2 文字のコードで指定します。以下は指定例です。日本語に対応する版では ja を使用します。

コード	表示言語
`en`	英語
`de`	ドイツ語
`fr`	フランス語

省略すると `Language` の設定を使い、それも空であれば Windows の表示言語に従います。

パラメーターを組み合わせる

両方を順不同で指定できます。

```
OODeskInfo.exe /cfg:"C:\IT\OODeskInfo.cfg" /lang:en
```

エラー処理

未知のパラメーター、誤った書式、存在しないファイルなどを指定すると、該当するコマンドと使い方を表示して終了します。自動展開で設定ミスを見逃さないためです。

展開時の使用例

ログオンスクリプトやスタートアップフォルダーのショートカットから、共通の構成で起動する例です。

```
"%ProgramFiles%\OODeskInfo\OODeskInfo.exe" /cfg:"\\fileserver\it$\deskinfo\OODeskInfo.cf
```

配布用構成の用意は組織への展開を参照してください。

組織への展開

インストールやサービスは不要で、標準ユーザーとして起動できます。すべての設定を読みやすい XML ファイルで管理できるため、組織内での配布や設定の固定に適しています。

フリーウェアのため、商用環境を含め任意の台数に展開でき、個々のライセンス管理は不要です。

3 段階で展開する

1. 構成を準備する

まず 1 台で起動し、プロファイル、位置、文字サイズ、連絡先などを利用者向けに整えます。終了後、構成ファイル `OODeskInfo.cfg`（保存先：`%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\`）を原本として取得します。

配布前にプログラムが管理する値を参照して機器固有の値を外し、以下の展開用設定を加えます。

2. ファイルを配布する

`OODeskInfo.exe` と `OODeskInfo.cfg` をクライアントの同じフォルダー（例：`C:\Program Files\OODeskInfo\`）にコピーします。隣にある構成を優先するため、ユーザーごとの準備なしで同じ設定を使用できます。

別の方法として、共有フォルダーに構成を置き、`/cfg` で指定できます。

3. 自動起動を設定する

`SetAutoRun` を `true` にすると、初回起動時に確認なしで現在のユーザーの自動起動を登録します。`false` にすると登録を削除でき、撤去にも使えます。

```
<Settings>
 <SetAutoRun>true</SetAutoRun>
</Settings>
```

利用者に連絡先を表示する

`InfoMessage` はシステム情報の上に任意の 1 行を表示します。各 PC のデスクトップにヘルプデスクの連絡先などを常時表示できます。

```
<Settings>
 <InfoMessage>IT Help Desk: helpdesk@example.com | Phone: +49 30 1234-5678</InfoMessage>
</Settings>
```

利用者は連絡先をすぐに確認でき、問い合わせ時には PC 名と Windows ビルドを読み上げたり、**情報をクリップボードにコピーしてください** でまとめて送ったりできます。

表示にはプロファイルに `InfoMessage` が必要です。すべての定義済みプロファイルでは先頭に配置されています。

ユーザーの操作を制限する

次の 2 つの設定で変更や操作の範囲を制御します。

IsRestricted

```
<Settings>
 <IsRestricted>true</IsRestricted>
</Settings>
```

`IsRestricted` が `true` のときは読み取り専用になります。

- プログラムは構成ファイルに書き込まないため、展開した値を誤って上書きすることもありません。
- 通知領域の右クリックメニューは表示されません。

キオスク、教室、製造現場の端末など、常に指定どおりの表示を維持したい場合に利用します。

TrayMenu

より細かく調整するには `TrayMenu` でアイコンとメニューの表示範囲を指定します。

値	アイコン	メニュー	用途
`Full`	表示	すべて	通常の利用（既定）。
`ExitOnly`	表示	**終了** のみ	利用者は終了できるが、設定は変更できない。
`HideMenu`	表示	なし	CPU 負荷の表示だけに使う。
`HideAll`	非表示	なし	デスクトップ表示以外をすべて隠す。

```
<Settings>
 <TrayMenu>ExitOnly</TrayMenu>
</Settings>
```

> **注記**
>
> `HideAll` では利用者がプログラムを操作できなくなります。展開する前に、`OODeskInfo.exe` を終了する管理スクリプトなど、ほかの停止手段を用意してください。

ウィザードを省略する

`ShowWelcome` を `false` にすると、初回のウィザードを表示しません。

```
<Settings>
 <ShowWelcome>false</ShowWelcome>
</Settings>
```

サポート用プロファイル

すべての情報を表示するよりも、機器の識別とネットワーク情報に絞る方が役立つ場合があります。次の例では第 1 列に機器情報、第 2 列にネットワーク、第 3 列にドライブと負荷を配置します。

```
<Settings>
 <SelectedProfile>Custom</SelectedProfile>
 <CustomProfile>
 <Name>Custom</Name>
 <DisplayName>Support</DisplayName>
 <ShowLabels>true</ShowLabels>
 <Keys>
 <Item>InfoMessage</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>UserAndMachine</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>OS</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>Hardware</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>NetworkBasic</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>NetworkAdvanced</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>LocalDrives</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>NetworkDrives</Item>
 <Item>-</Item>
 <Item>Performance</Item>
 </Keys>
 <ColumnAssignments>InfoMessage:0;UserAndMachine:0;OS:0;Hardware:0;NetworkBasic:1;Networ
 </CustomProfile>
</Settings>
```

`Hardware` には資産管理やハードウェア保守に必要なメーカー、型番、**シリアル番号** が含まれます。全キーはシステム情報を参照してください。

> **警告**
>
> 配布用プロファイルに `OSProductKey` や `OSOEMProductKey` を追加しないでください。デスクトップにキーを常時表示すると、画面共有やリモートサポートで第三者に見えるおそれがあります。必要な利用者は通知領域からキー表示を開けます。

環境別の設定例

環境	設定例
オフィス PC	`InfoMessage`、`SetAutoRun=true`、`ShowWelcome=false`、`TrayMenu=Full`。外観は利用者が変更できます。
キオスク、教室、製造現場	さらに `IsRestricted=true` と、`TrayMenu=HideMenu` または `HideAll` を指定します。
ノート PC	`UpdateSpeed=10`、`UseEfficiencyMode=true` で消費電力を抑えます。
ターミナルサーバー／VDI	GPU 情報が取れないセッションが多いため `ShowGPUGraph=false`、さらに `ShowOnAllMonitors=false` を指定します。
サーバーのコンソール	`Minimum` または `UserAndMachine`、`OS`、`SystemStatus`、`LocalDrives` を含む独自プロファイル。

O&O DeskInfo を撤去する

ポータブルアプリのため、通常のアンインストーラーはありません。次の手順で撤去します。

1. プログラムを終了するか、`OODeskInfo.exe` のプロセスを停止します。
2. 自動起動を削除します。`SetAutoRun` を `false` にして一度起動するか、`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run` から O&O DeskInfo の値だけを削除します。
3. プログラムのフォルダーを削除します。
4. 必要に応じて `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\` を削除し、設定とログを消去します。

関連する管理ツール

台数が多い場合、**O&O Syspectr** で PC やサーバーの資産情報、監視、アラートをクラウド経由でひとつのコンソールに集約できます。一定台数まで無料で利用できるプランもあります。

ワークステーションを準備する際には、次の無償ツールも利用できます。

- **O&O ShutUp10++**：ポリシープロファイルをインポート・エクスポートして Windows 10／11 のプライバシー設定を管理します。
- **O&O AppBuster**：展開用イメージからプリインストールアプリや不要なソフトウェアを整理します。

トラブルシューティング

症状から原因と対処法を確認してください。該当しない場合はよくある質問を参照するか、O&O サポートにお問い合わせください。

ディスプレイ

デスクトップに情報が表示されない

原因： 起動していない、別のモニターに表示されている、壁紙と文字の色が近い、またはデスクトップ統合が正しく動作していない可能性があります。

対処： 次の順に確認します。

1. 通知領域の隠れたアイコンも確認します。アイコンがなければ `OODeskInfo.exe` を起動してください。
2. **モニター** で使用中の画面を選ぶか、**全モニター** を選びます。
3. 表示設定の**テキストカラー**を壁紙と対照的な固定色にし、**表示の不透明度**を 100% にします。
4. **デスクトップに統合して表示**をオフにします。デスクトップに依存しないスライドウィンドウに切り替わります。

➡️ デスクトップ表示

エクスプローラーの再起動後にパネルが消える

原因： パネルは通常、エクスプローラーの再起動を検出してデスクトップに再接続しますが、まれに表示が復元されないことがあります。

対処： 通知領域の**デスクトップに統合して表示**をオフにしてからオンに戻します。履歴を保持したまま表示が再構築されます。

➡️ デスクトップに統合する

複数のモニターでデスクトップ統合が機能しない

原因： 負の X 座標を含む配置では、メインモニターの左側の画面に正しくパネルを重ねられない場合があります。

対処： Windows のディスプレイ設定でメインモニターの左にほかの画面がない配置にするか、スライドウィンドウを使用します。

➡️ モニター選択

表示が切れる、列の高さがそろわない

原因： 文字サイズに対してカテゴリ数が多すぎるか、固定列への割り当てが自動配置を妨げています。

対処：

1. 表示設定の**フォントサイズ**を小さくします。
2. プロファイルから不要なカテゴリを外します。
3. 固定する必要のないカテゴリは、プロファイルエディターで列を **自動** に戻します。

➡️ 列のレイアウト

デスクトップ表示をクリックできない

原因： デスクトップアイコンの操作を妨げないよう、統合モードではクリックを背後に通します。設定には通知領域のアイコンを使います。

対処： パネル自体を操作するには**デスクトップに統合して表示**をオフにします。スライドウィンドウはタブまたは通知領域のアイコンの左クリックで開閉できます。

➡️ スライドウィンドウ

表示項目と数値

バッテリーの値が表示されない

原因： バッテリーがない機器では該当する行が自動で隠れます。

対処： デスクトップ PC ではそのままで構いません。ノート PC では Windows がバッテリーを認識しているか確認します。

➡️ システム情報

GPU 使用率が表示されない

原因： 一部のリモートデスクトップセッションなどでは GPU データが提供されず、プロファイルや **GPU使用率グラフ** の設定にかかわらず該当する行が隠れます。

対処： 設定変更は不要です。ローカルでサインインした場合など、データを取得できるようになると自動で表示されます。

➡️ パフォーマンスグラフ

ネットワークドライブに × が表示される

原因： サーバーの停止、VPN の切断、資格情報の期限切れなどで現在到達できません。ほかの情報の更新を止めず、このドライブに印を付けています。

対処： サーバーへの接続を復旧してください。応答すれば自動で表示に戻ります。

➡️ 応答しないネットワークドライブ

意図したものと違うアダプターの値を表示している

原因： 通常は Windows が外向きの通信に使うアダプターをアクティブと判断して選びます。

対処： 通知領域の **ネットワークアダプター** で対象を指定してください。変更するとプログラムが再起動します。

➡️ ネットワークアダプター

通知領域のメニューと設定

メニュー項目が少ない、またはメニューが表示されない

原因： 構成ファイルの `TrayMenu` または `IsRestricted` がメニューを制限しています。会社の PC では意図した制限の場合があります。

対処： 該当する 2 項目を確認するか、IT 部門に相談してください。

➡️ `TrayMenu`、`IsRestricted`

メニューに「カスタム」と表示される

原因： 構成ファイルに、メニューのプリセットにない値が指定されています。現在の状態を示すだけで、クリックしても変更されません。

対処： メニューのプリセットを選ぶか、指定した値をそのまま使用します。

➡️ 構成ファイル

ファイルを編集したら設定が既定値に戻った

原因： 閉じタグの欠落や要素名の誤りなどで解析できず、設定が初期化された可能性があります。元のファイルは同じフォルダーにタイムスタンプと拡張子 `.invalid` を付けて保存されます。

対処：

1. 構成フォルダーの `.invalid` ファイルを開き、誤りを修正します。
2. 修正した値を `OODeskInfo.cfg` に戻します。保存後約 1 秒で適用されます。

➡️ 変更の自動反映

変更後にプログラムが再起動する

原因： `Monitor`、`ShowOnAllMonitors`、`NetworkAdapter`、`ShowDriveActivity` は起動時に 1 回だけ初期化できるリソースを使うため、変更後に自動で再起動します。ほかの設定は、履歴を維持して表示を再構築します。

対処： そのままお待ちください。再起動は短時間で、設定は保持されます。

➡️ 構成ファイル

問題を報告する

解決しない場合は次の手順でお問い合わせください。

1. `LogEnabled` を有効にして問題を再現します。ログは `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log` にあります。
2. 通知領域の **情報をクリップボードにコピーしてください** でシステム情報を取得します。
3. 両方を O&O サポートに送付してください。連絡先はサポートと O&O の関連製品に掲載しています。

よくある質問

ライセンスと価格

本当に無料で使えますか？

はい。**フリーウェア**で、個人・業務を問わず任意の台数で利用でき、改変せず配布できます。試用期限、ライセンスキー、登録、有償エディションはありません。

高機能な Pro 版や Premium 版はありますか？

ありません。本書に記載した機能はすべて無償版に含まれます。

複数の PC を一元管理する場合は、別製品 **O&O Syspectr** を利用できます。クラウド型の監視・管理サービスで、一定台数まで無料で利用できるプランがあります。

ダウンロードにインストーラーや追加ソフトが付いていました

公式版はインストール不要で、追加ソフトは同梱しません。第三者による同梱は利用条件に反します。公式サイトから入手し、同梱版の入手先をお知らせください。

インストールと起動

管理者権限は必要ですか？

通常の操作は標準ユーザー権限で行えます。自動起動の登録も現在のユーザーのみに適用され、管理者権限は不要です。

設定はどこに保存されますか？

通常は `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\OODeskInfo.cfg` です。`OODeskInfo.cfg` が `OODeskInfo.exe` **と同じフォルダー**にあればそちらを優先し、USB メモリで設定ごと持ち運べます。構成ファイルの保存先を参照してください。

USB メモリから実行できますか？

はい。`OODeskInfo.exe` をコピーします。設定も持ち運ぶ場合は、同じフォルダーに `OODeskInfo.cfg` を置きます。

Windows と同時に起動しますか？

指定した場合だけ起動します。通知領域の **Windows 起動時に実行**、または無人展開では `SetAutoRun` を使ってください。

ディスプレイ

代表的な症状は以下のとおりです。トラブルシューティングでは順を追って確認できます。

デスクトップに情報が表示されません

次の順番で確認してください。

1. **起動していますか？** 通知領域のアイコンを探します。矢印の中に隠れていることもあります。
2. **別の画面にありませんか？ モニター** で表示先を確認するか、**全モニター** を選びます。
3. **壁紙と同じ色になっていませんか？** 表示設定の**テキストカラー**を見やすい固定色にし、**表示の不透明度** を 100% にします。
4. **デスクトップ統合に問題がありませんか？ デスクトップに統合して表示**をオフにして、独立したスライドウィンドウで表示します。

エクスプローラーの再起動後に表示が消えました

通常は自動で再接続します。戻らない場合は通知領域のメニューでデスクトップ統合をいったんオフにし、再びオンにして表示を再構築します。

パネルをクリックできないのはなぜですか？

デスクトップ統合モードではクリックを透過し、背後にあるアイコンなどを操作できるようにしています。設定は通知領域のアイコンから変更します。パネル自体を操作したい場合はスライドウィンドウに切り替えます。

任意の位置に移動できますか？

表示位置は画面の四隅から選びます。構成ファイルに上下左右の余白を指定して微調整できます。画面端からの余白を参照してください。

表示が切れる、または列の高さが偏ります

文字サイズを小さくするか、プロファイルのカテゴリを減らしてください。列を固定したカテゴリは自動配置できないので、固定する必要のないものは **自動** に戻します。列のレイアウトを参照してください。

特殊なモニター配置でデスクトップ統合が機能しません

統合モードは負の X 座標を含む配置に制約があり、メインモニターの左に別の画面があると正しく表示されないことがあります。Windows のディスプレイ設定で並べ替えるか、スライドウィンドウを使ってください。

表示項目と数値

バッテリー情報がないのはなぜですか？

バッテリーのない機器では、該当する行が自動で隠れます。

GPU 使用率が表示されません

一部のリモートデスクトップセッションなどでは必要なデータを取得できません。その場合、プロファイルや **GPU使用率グラフ** の設定にかかわらず GPU の行を非表示にします。

GPU のメモリが専用または共有と表示されるのはなぜですか？

アダプターに応じた値を表示するためです。独立型のグラフィックスカードでは専用ビデオメモリ、統合型では共有システムメモリを表示します。

ネットワークドライブに × が表示されました

サーバーの停止、VPN の切断、資格情報の期限切れなどで接続できない状態です。表示全体を止めず、このドライブだけに印を付けます。応答が戻れば自動で再表示します。

ネットワーク情報はどのアダプターの値ですか？

通常は Windows が外向きの通信に使うアダプターです。通知領域の **ネットワークアダプター** で対象を固定できます。

Windows のプロダクトキーも表示できますか？

カスタムプロファイルに `OSProductKey` と `OSOEMProductKey` を追加できます。ただし、画面共有中などに第三者に見えるため、必要なときだけ通知領域のキー表示を開くことをお勧めします。

設定

構成ファイルの編集後に再起動は必要ですか？

通常は不要で、保存後約 1 秒で反映されます。`Monitor`、`ShowOnAllMonitors`、`NetworkAdapter`、`ShowDriveActivity` は起動時に初期化するリソースを使うため、自動で再起動します。それ以外はグラフ履歴を保持したまま表示を再構築します。

ファイルの編集後にすべての設定が消えました

解析に失敗して既定値に戻った可能性があります。同じフォルダーのタイムスタンプ付き `.invalid` ファイルを開き、閉じタグや要素名などを確認して、修正した値を戻してください。

メニューの「カスタム」とは何ですか？

構成ファイルの値がメニューのプリセットに一致しないことを表します。現在の状態を示すだけで、クリックしても変更されません。

メニューの項目が足りない、またはメニューが開きません

`TrayMenu` と `IsRestricted` で制限されていないか確認します。組織の PC では意図した設定の場合があるため、IT 部門に相談してください。

設定を変えると再起動することがあるのはなぜですか？

モニター、アダプター、ドライブアクセス表示の変更では、システム情報やパフォーマンスカウンターを確実に再初期化するため再起動します。言語やデスクトップ統合の切り替えは、履歴を残してウィンドウだけを再構築します。

パフォーマンス

CPU やメモリの使用量はどの程度ですか？

負荷を抑えるため既定で効率モードを使い、Windows に低優先度と対応機器の高効率コアを要求します。さらに抑えるには、更新速度を低速にして不要なグラフをオフにします。

スタンバイ後もグラフは使えますか？

はい。スリープ時にタイマーとカウンターを一時停止し、復帰時に再開するので、休止時間でグラフが乱れません。

履歴はどのくらい保存されますか？

指標ごとに既定で 1024 サンプル、通常の更新間隔では約 17〜34 分です。`MaxHistoryItems` で変更できます。

サポート

問題を報告するには？

1. `LogEnabled` でログを有効にして問題を再現します。
2. **情報をクリップボードにコピーしてください** でシステム情報を取得します。
3. 両方を O&O サポートまたは support@oo-software.com に送付します。

ログは `%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log` にあります。問い合わせ先はサポートと O&O の関連製品にも掲載しています。

対応する Windows は？

x86、x64、ARM の Windows 10／11 および Windows Server 2016 以降です。システム要件を参照してください。

サポートと O&O の関連製品

O&O DeskInfo はベルリンの O&O Software GmbH が開発しています。サポート窓口と関連情報は次のとおりです。

サポート

- **O&O サポート：** https://www.oo-software.com/en/support
- **メール：** support@oo-software.com
- **製品ページ：** https://www.oo-software.com/en/oodeskinfo

まずトラブルシューティングとよくある質問を確認してください。通知領域の **オンラインヘルプ** からも本書を開けます。

問い合わせを準備する

次の情報を記載してください。

- 通知領域の **バージョン情報** に表示される O&O DeskInfo と Windows のバージョン。
- **情報をクリップボードにコピーしてください** の出力。PC、OS、ハードウェア、ネットワークの情報が含まれます。
- 行った操作、実際の結果、期待した結果。
- 再現できる場合は `LogEnabled` を有効にして再現し、`%LocalAppData%\OO Software\OO DeskInfo\Logs\OODeskInfo.log` を添付します。ログの記録を参照してください。

コピーした情報とログにはコンピューター名、ユーザー名、ネットワークアドレスが含まれます。送信前に内容を確認してください。

ライセンス

フリーウェアで、登録、ライセンスキー、有償エディションはありません。個人・業務を問わず任意の台数で利用でき、改変せずに配布できます。第三者のインストーラーや他製品との同梱は利用条件に反するため、見つけた場合は入手先をお知らせください。無償ライセンスを参照してください。

更新

通知領域の **バージョン情報** で現在のバージョンと新版を確認できます。最新版は製品ページから入手できます。

O&O の関連製品

通知領域の関連製品メニューから、Windows 用 O&O ツールの案内を開けます。バックアップ、データ復旧、ストレージ最適化、Windows 管理などの製品があります。

製品	用途
O&O ShutUp10++	Windows 10／11 のプライバシー設定を無償で管理。
O&O AppBuster	プリインストールされた Windows アプリなどを無償で整理。
O&O Syspectr	PC とサーバーのクラウド資産管理・監視。一定台数まで無料で利用できるプランがあります。
O&O DiskImage	ドライブやシステム全体のバックアップと復元。
O&O Defrag	PC・サーバーのストレージ最適化。
O&O DiskRecovery	削除ファイルや破損したファイルシステムからのデータ復旧。
O&O SafeErase	ファイルと空き領域に残るデータの安全な消去。

O&O 製品一覧でも確認できます。